

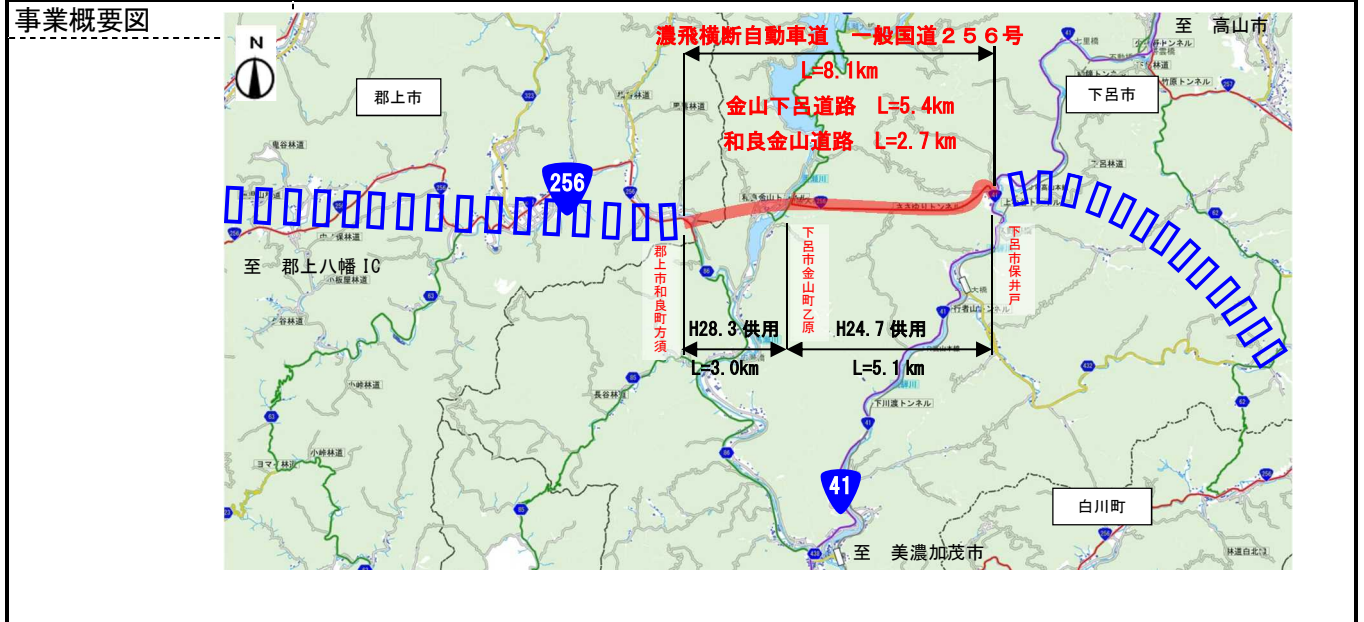
# 事後評価結果（平成29年度）

担当課：岐阜県県土整備部道路建設課  
担当課長名：熊谷 研一

事業名	地域高規格道路 濃飛横断自動車道 一般国道256号 金山下呂道路・和良金山道路	事業区分	一般国道	事業主体	岐阜県
起終点	自：岐阜県郡上市和良町方須 至：岐阜県下呂市保井戸	延長	8.1 km		

**事業概要**  
濃飛横断自動車道 一般国道256号金山下呂道路・和良金山道路は、郡上市から中津川市に至る濃飛横断自動車道（延長約80 km）の一部を構成し、郡上市和良町方須から下呂市保井戸に至る延長8.1 kmの道路である。

**事業の目的・必要性**  
本路線は、県土1700 km骨格幹線ネットワーク構想の推進、地域間の観光交流や産業振興の推進、災害時に有効に機能するネットワークの確保等を目的としている。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度：H9年度 事業完了年度：H27年度	用地着手：H11年 工事着手：H12年	供用年 (暫定/完成)	(当初) - / H27 (実績) - / H27	変動	- 倍	
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) - / 286億円 (実質値) - / -億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) - / 319億円 (実質値) - / -億円	変動	1.12倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	- / 3,600台/日	実績 (暫定/完成)	- / 1,028台/日	変動	28.6%	
	旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	42.2km/h → 55.3km/h (供用直前年次)H22 (供用後年次)H27	交通事故減少 (供用前現道→供用後現道)	11件 → 10件 (H22~H24) (H25~H27)				
費用対効果分析結果(当初)	B/C	1.5	総費用	221億円	総便益	332億円	基準年	平成18年 (金山下呂道路)
			(事業費：216億円 維持管理費：5億円)		(走行時間短縮便益：290億円 走行経費減少便益：35億円 交通事故減少便益：7億円)			
費用対効果分析結果(事後)	B/C	1.5	総費用	54億円	総便益	79億円	基準年	平成19年 (和良金山道路)
			(事業費：51億円 維持管理費：2.9億円)		(走行時間短縮便益：52億円 走行経費減少便益：23億円 交通事故減少便益：4億円)			
費用対効果分析結果(事後)	B/C	1.0	総費用	437億円	総便益	447億円	基準年	平成29年
			(事業費：431億円 維持管理費：6億円)		(走行時間短縮便益：371億円 走行経費減少便益：50億円 交通事故減少便益：26億円)			

	事業遅延によるコスト増	費用増加額	－ 億円	便益減少額	－ 億円	遅延年	－
	事業遅延の理由						
	—						
	客観的評価指標に対応する事後評価項目						
	—						
	その他評価すべきと判断した項目						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郡上八幡と下呂温泉間の移動距離が18km、所要時間が25分短縮し、アクセス性向上。</li> <li>・ 平成23年から平成28年の年間観光入込客数は、下呂温泉で約2.4万人、郡上八幡で約9.7万人、道の駅和良で約6.2万人増加し、観光客数増加の一助となった。</li> <li>・ 通行した観光客は、所要時間短縮効果や走行快適性等を実感。</li> <li>・ 配達事業者へのヒアリングにおいて、下呂市中心部から金山町東地区や和良地区への配達の際に時間短縮効果を実感。</li> <li>・ 消防や救急活動において、金山町乙原・岩瀬地区から下呂温泉病院までの搬送時間が約25分短縮。</li> <li>・ 地域住民へのアンケートにおいて、整備に対する満足度、地域にとっての有益性の各項目とも、8割以上が効果を実感。特に「日常生活での利便性の向上」の満足度が高い。</li> </ul>						
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岐阜県環境影響評価条例に基づき、工事中の環境対策、供用後の事後監視調査を実施する等、適切な環境対策を実施し、保全することができた。</li> <li>・ 環境省絶滅危惧ⅠB類および岐阜県絶滅危惧Ⅰ類に指定されているクラガリシダを移植。その後、モニタリング調査を実施して活着を確認。</li> </ul>						
	その他評価すべきと判断した項目						
	—						
事業評価監視委員会の意見							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 改善措置の必要はない</li> </ul>							
事業を巡る社会経済情勢等の変化							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成10年12月 一宮JCT－尾西IC開通により、東海北陸自動車道と名神高速道路が接続</li> <li>・ 平成17年 3月 美濃関JCT開通により、東海北陸自動車道と東海環状自動車道が接続</li> <li>・ 平成20年 7月 飛騨清見IC－白川郷IC開通により、東海北陸自動車道が全線開通</li> <li>・ 平成27年 7月 金山下呂道路が部分供用開始</li> <li>・ 平成28年 3月 和良金山道路が供用開始</li> </ul>							
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後評価及び改善措置の必要はない</li> </ul>							
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見直しの必要はない</li> </ul>							
特記事項（同種事業への反映等）							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貴重種等、必要な環境調査を行い、環境に配慮した事業の実施を促進していく。</li> </ul>							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。